



重盤岩より望む山々

津奈木

前巻九号

発行所
津奈木公民館
芦北郡津奈木町
電話(78)3111代
印刷所 旭印刷
電話(水保) 34101番

☆ ☆
津奈木も大部分が山に囲まれているので、山に親しむ舞台はどこにでも見出すことが出来る。庭先や裏山にも自然に通じる散策路がある。
そんな中で、矢城山(標高五八六)の頂は県下でも推奨に値する山に挙げよう。展望の雄大さ、海をながめる山としては上のクラスに挙げられる。海の展望も適度な高度感が必要で、低くても勿論いけないし、又あまり高すぎても

山に親しむ 津奈木近在の山々

浜崎 大園 伸三

日本は海国、山国である。四の移ろい、温暖な気候、すべての点で日本は自然に恵まれている。ことに国土の七割以上は山、又山の連なりだ。日本人のふるさとにこの山の存在を抜きにして語ることは出来ない。校歌も大抵山や海をまず大いなる存在として讃歌するところから始まる。啄木の有名な「ふるさとの山に向いて言うことなし」ふるさとの山はありがたきかな」の心情は日本人のふるさと観を素直に表現している。それぞれのふるさとにそれぞれの山々がある。幼い頃に慣れ親しんだ自然、海も川も山々も、人々のふるさとを形成する大切な要素である。
津奈木も大部分が山に囲まれているので、山に親しむ舞台はどこにでも見出すことが出来る。庭先や裏山にも自然に通じる散策路がある。
そんな中で、矢城山(標高五八六)の頂は県下でも推奨に値する山に挙げよう。展望の雄大さ、海をながめる山としては上のクラスに挙げられる。海の展望も適度な高度感が必要で、低くても勿論いけないし、又あまり高すぎても

をながめるに適している。陽光さんさんと降り注ぐ南国の高台に、一日の行楽を企画して子供たちを遊ばせるには良い舞台である。
また町の中心にある「舞鶴城公園」を忘れるわけにはいかない。我家の子供たちが幼い頃、朝に夕に連れて歩くのを常とした。「自然の中に子供たちを放牧する」この言葉が好きで、身近な所にこんな立派な公園を有している事を有難く思った。「山に登る」と身構える必要はない。まず自然に遊ぶことから始めようと思う昨今である。

一方、辻の高台も身近に天草灘をながめるに適している。陽光さんさんと降り注ぐ南国の高台に、一日の行楽を企画して子供たちを遊ばせるには良い舞台である。
また町の中心にある「舞鶴城公園」を忘れるわけにはいかない。我家の子供たちが幼い頃、朝に夕に連れて歩くのを常とした。「自然の中に子供たちを放牧する」この言葉が好きで、身近な所にこんな立派な公園を有している事を有難く思った。「山に登る」と身構える必要はない。まず自然に遊ぶことから始めようと思う昨今である。

一言

夏の風物詩として、私たちの心をほのかに和ませてくれるホタル、あの美しいホタルの姿がめつかり見かけられなくなった。河川などの自然環境が生活廃水や農業などで汚染されてしまったからだろう。知らず知らずのうちに心に安らぎを与えてくれる生物たちが消えていくように思う。開発々々、まるでプームのように野性動物のすみ領域まで人間が侵入し、山を追われ農作物を荒らし、彼らは害獣として駆除される。被害を受ける住民も動物も、乱開発の犠牲者である。
今地方で絶滅しかけた混虫を、さらによみがえらせるには、何十倍の工夫と努力が必要といわれている。わけてもホタルは成虫になつてからエサは取らず、水だけで幼虫時にたくわえたエネルギーで求愛の光を放ち、わずか一週間の生命をひたすら恋に燃やすすわびしい虫である。
「ホー、ホー、ホタル来い。こつちの水は甘いぞ。あつちの水はにーがいぞ。」の歌が思い出される。
淋しいこつ今子とま、ホタルも知らんこバイ

平成二年度 社会教育 団体役員紹介

皆様の御指導をお願いいたします

津奈木町 連合青年団

団 長 本山 真吾
副 団 長 新立巳喜男
事務局長 荒川 隆広
顧問 新立 啓介

婦人会

津奈木校区

会 長 千々岩順子
副 会 長 西川 京子
副 会 長 齊藤 道子
計 画 白坂 寿子
生 産 協 会 沢井ミエ
監 事 竹本 勝子
監 事 松田ハツエ

津奈木町 PTA 連絡協議会

会 計 野崎 久子
書 記 伊藤 信子

津奈木中学校

会 長 松永 尚盛
副 会 長 村上 義広
副 会 長 吉田 吉猛
副 会 長 齊藤 卓也
副 会 長 元村 久美
計 画 川野 朱美
書 記 鶴野 尚子
監 事 三隅 茂夫
監 事 中山 巳熊
監 事 上原 良一

津奈木町老人 クラブ連合会

会 長 齊藤 治
副 会 長 伊藤嘉次郎
副 会 長 宮崎 哲
事務局長 久村 論
監 事 九田 繁人
監 事 鶴野巳登志

赤崎小学校

会 長 諫山 茂
副 会 長 上村 幸一
副 会 長 岩崎 孝子
計 画 岩崎 孝一
監 査 岩崎 孝一

平国小学校

会 長 浜田久米男
副 会 長 福田 三継
副 会 長 福山 二子
副 会 長 前田 利雄
事務局長 福田 利雄
監 事 福田 利雄
監 事 長浜 生幸
監 事 後藤 善治

津奈木町 文化協会

顧問 緒方 孝行
顧問 福島 円太
会 長 六車 孝吉
副 会 長 谷口 秀人
副 会 長 山下 茂
理事長 鶴野 慶昭
理事 竹本 茂人
事務局長 伊藤 一吉
監 事 浦口美代子

町民体育祭

男子 ソフトボール大会
女子 ミニバレーボール大会



雨天の中ブレイボール。去る5月1日(日)町民体育祭男子ソフトボール・女子ミニバレーボール大会が実施された。当日は開会式を目前に控え雨が降りだし大会の行方が危れたが、体育部長さんたちの話し合いの結果決行された。午前中は雨足も強くソフトボールは珍プレーが続出し、又雨のため駆足の交替で予定時間より早目に終了した。
女子ミニバレーボールは、今回の新種目で、従来のバレーボールとは一味違ったルールで慣れない場面も多々見受けられたが、準決勝、決勝にもなるとラリーの応酬で試合時間も長くなり熱戦の連続であった。
結果は、男子ソフトボールがパワーと技術力で勝る中尾チームが他チームを寄せつけず大差で優勝した。女子ミニバレーは、伝統と年間を通して地区婦人会で各種スポーツを練習し、ミニバレーも数回の練習経験があり、団結力がある倉谷チームが若さの日当チームを接戦の末、久しぶりの優勝を手におさめた。



郡市対抗 陸上競技大会

去る六月十日、田浦町民グラウンドを会場に、郡市陸上競技大会が開催された。
本町からも三〇名余りの役員、選手団を送り、トラック競技45種目、フィールド競技16種目の合計61種目に出場し、日頃の成果を遺憾なく発揮し、すばらしい力走を見



せてくれ、9種目で一位に輝くなど、大健闘をみせた。しかし、総合成績では津奈木町は残念ながら四位と選手の健闘空しく最下位に終わった。
最後になりましたが、今回の水俣市・芦北郡各町対抗陸上競技大会に参加していただいた選手の方々の協力に対し、体協事務局よりお礼申し上げます。

地域をおこす人々(10)

舞鶴公園一帯の 清掃奉仕を続ける

元村 壮さん (64才)

今日も元村さんは舞鶴公園に登り、黙々と付近一帯の清掃奉仕を続けておられます。元村さんの舞鶴公園行きは、役場在職中身体が少し太り気味だったので、スマートな格好にしたいと運動のために登ったのが始まりだそうです。最初の頃は公園まで途中十回位休憩していたのが、現在では一気に行けるようになったそうです。昭和六十一年三月末に役場を退職し、それから本格的な舞鶴公園登山が始まったのです。公園に登ってみると、ちりが散乱しつともない光景に、元村さんは折角だからと美化作業もやろうと思ひ立ち、草刈り、紙屑拾い、空缶拾い等をしてさわやかな気持ちで下山することにしたそうです。特別な用事のない限り、雨の日も殆ど毎日、朝九時に家を出て登山、作業をして昼前に帰宅するというのが元村さんの日課になっております。来訪者の方々が、ちりをポイと投げ捨てないで、屑入れカゴ



のが元村さんの日課になっております。来訪者の方々が、ちりをポイと投げ捨てないで、屑入れカゴ

読書感想文

「ドリトル先生 月から帰る」を読んで

津奈木中学校一年 森本 茜

舞鶴公園はすばらしいところで、以前より展望がきかないので、木を伐採するか展望台を作るかしてもらったと元村さんは感想を述べておられました。元村さんは自分の健康の維持増進のためだけでなく地域社会の環境美化につとめ、美しいふるさと作りを頑張っておられます。私はもう中学生になったので、本の読み方を少し変えて最初に、その物語を想像してから読み始めようと考え、読み始めた第一号がこの本である。私がドリトル先生を想像してみると、こんなふうになった。まず、目には黒ぶちの眼鏡をかけ、体形は少し太りぎみで、お腹が出ています。髪は大橋巨泉さんのヘアスタイルで、服は上がワイシャツ、下が黒のズボンになった。さて、さっそくページを開き、口絵を見てみると、当たっていたのはお腹が出てるところだけだった。ほかは、案外当たっているのかも期待していたのだが、全部、外れていた。次に、この物語に出てくるドリトル先生という人物は、実は動物と語が出来る人だった。私はこのことは、この物語の一番の特長だと思った。それから、もつとすごいと思うことがあった。それは、各動物によって言葉が違ふことである。ドリトル先生の家には、地球上のほぼ全種類の動物がいる。というところは、私達で言えば、地球のどこへ行っても現地の人と話が出来るといふことである。このドリトル先生、月に生息調査で一年近く行って来たところ、重力の関係で身長と体重が元の二倍になり、元にもどるまでとって大変だったようだ。それから、先生は月の外れに住んでいたこの集団の所に行ったら、その中の一匹のねこを連れて

郡公民館運営研究大会の開催

来る七月十三日(金)本町役場三階会議室にて郡下公民館運営関係者が相集い研修が行われます。情報化・国際化・高齢化という時代の中で、人々の学習ニーズは多様化し、高度化しております。住民の学習の場である公民館の役割

銘木紹介

榊 前坂正敏家(浜崎)

国道3号線を釜製材所から久子へ通じる道に折れて、鉄道の下をくぐり抜けたら、すぐに前坂家がある。

庭先の一隅に、昔からの井戸が湧水をたたえ、今でも湧れることなく美味しいお茶を提供してくれている。昔はこの井戸の上をいっばいにその栄える木の緑が蔽いかぶさっていたであろう。根廻り一米十糎、一米ほどの高



生い茂る榊

所有者の前坂家でもその始めを知らずという(樹齢不詳)六車町長から町内随一の古木なりと折紙がつけられた。サカキは古事記万葉の昔から賢木の字があてられ、境木、栄木、小香木、杜香木などと呼ばれた。いずれも神の鎮まります地のサカキ(区域)の木の意で、もと神樹を意味したが、常緑で葉が枯れない榊を祭神の用としたことから榊の木をいうようになった。(大言

叙勲

おめでとうございます

このたび永年人権擁護に尽くされた田上一智氏が勲五等双光旭日章を拜受され、また、消防関係に尽くされた吉野順氏が勲七等青色桐葉章を、長濱一男氏が勲六等瑞宝章を、更に選挙関係で功労のあった福田信順氏が自治大臣表彰を受けられました。

短歌

宮崎 優選

ほは杖をつきて町舎の傍に一人わびしむ少年の像
園児らの放つ風船とりにプロ
ンズ像より遠ざかりゆく
寺本 ツルヲ
春告げしツツジの花がら摘みおえて緑の風の吹きぬけてゆく
長距離の大型トラックとめどなく躍動のネオン真夜の国道
野田 浦子
芝桜植えては枯らしようやくに目覚める如く咲きいづるなり
紅白のねじり鉢巻幼児等は祭りの土俵力士に抱かれ
福田 八重子
小雨降るしづかな朝空白らむ楓若葉の清しく濡るる
小さき指しやぶりに眠る嬰兒のいとけなき顔あかず見つむる
西 滋子
亡き夫の慈しみたるヒゴタイの緑の葉むら朝の陽に映ゆ
はらからと茶つみし里は賑やかにほらかな想出一人茶を摘む
白浜 美和子
吾が前を幼なクラスは怖じもせず道より右に左に
レンゲ花友等と摘みし故郷の野路のあたりを夢にきて歩く
柳迫 いづも
心こめ吾子が贈りし湯のみにて香りも高き新茶呑みおり

肥後狂句

堀 双岳選

ひねくれて、あの子の先が思われる、
青葉影、さぞ涼しからう池の鯉
ひねくれて、ああたの世話にやならんちゅう
青葉影、アベック以来はおことわり
ひねくれて、一度もハイと言わん奴
青葉影、水かけ地ぞうは夏知らず
青葉影、西瓜盗人が高いびき
ひねくれて、其処がよかちゅう鉢の松
次 笠
年から年中、秋立って、一笠二句づつ。七月末日まで。堀 双岳宛。

「さまざまな生活苦にも 耐え生きて明治百年 今日のしあわせ」

明治、大正、昭和と苦難の道を歩いた母の思いが、この三十一文字の中にしっかりとつたて込まれていて、町当局より自治功労賞を受け晩年を穏やかに、幸福に過ごせることを心から感謝したのと思ひます。

明治三十二年四月十八日芦北町佐敷に生まれた母は、母親の再婚などで、子どものころ苦労したけれども、いろいろ教えられて、大人になって大へん役に立ったと事ある毎によく話してくれました。そんな理由で私にも小学校の二年生の頃から、御飯炊き、水くみ、掃除と教え込まれました。女の子

田に暮る

斉藤 道子

りして働くことの尊さと喜びを体で教えてくれました。『定所物あり、物定所あり』これも母流の整理の仕方です。決められたところに物を片づけられ、使ったとき探し廻らないですむわけです。特にこの頃は年のせいか忘

は、何でもできなければいけない、一人娘だと甘えていては人様に笑われると厳しく躾けてくれました。で、今でも体を動かすことが苦にならず、作る喜びを満喫しています。現金収入を得るために蚕を飼ったり、遠くまで稼ぎに行つた

す。選ばれて地区につくす心得は、短気おこさず、暇おします。云うてもらい、聞いてもらい」とノートの端にメモしてありました。人の世話をすることの難かしさを痛感している時でしたので、何回も読み返して考えてみました。暇おしますもなかなか大変なことだと思ひますが、「云うてもらい」意見を

出してもらうことが一番難かしいことのように思ひます。どう考え、どう思っているか、言葉に出して始めてわかり合えるのです。何でも話せる人になれるよう心がけたいと思ひます。『六十の坂道つづがなく尚七十の道平なり静かに歩む』母の歩いた道を私もつづがなく歩いて行けるよう努力します。